

令和5年度第1回坂井市子ども・子育て会議 議事概要

日時	令和5年7月26日（水） 午後7時～
場所	坂井健康センター1階ホール
出席者	委員：石川会長、武田副会長、伊藤委員、久保田委員、西村委員、岡崎委員、 中嶋委員、伊東委員、橋本委員、小林委員、片山委員、勇上委員、盛岡委員 事務局：森瀬部長、栗原課長、佐藤課長、浦課長、結城参事、 河原参事、細川課長補佐、矢尾参事、井上課長補佐
欠席者	なし
議題	(1) 第2期坂井市子ども・子育て支援事業計画に基づく令和4年度施策・ 事業の進捗状況および令和5年度事業計画について (2) 第3期坂井市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けたニーズ調査に ついて
報告事項	(1) 高椋幼保園の閉園について
その他	今後の会議日程
資料	(当日配布) 坂井市子ども・子育て会議委員名簿 資料1 坂井市子ども・子育て会議の役割 資料1-2 坂井市子ども・子育て会議条例、坂井市子ども・子育て会議条例施行 規則、子ども・子育て支援法（抜粋） 資料2-1 令和4年度坂井市子ども・子育て支援事業計画 進捗状況結果一覧 資料2-2 令和4年度坂井市子ども・子育て支援事業計画 点検・評価表（施策） C・D評価抽出 資料2-3 令和4年度坂井市子ども・子育て支援事業計画 点検・評価表（施策） および令和5年度事業計画 資料2-4 令和4年度坂井市子ども・子育て支援事業計画 点検・評価表（教育・ 保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保の内容） 資料3 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けてのニーズ調査について 資料4 高椋幼保園の閉園について

1. 開 会

2. 委嘱書交付

3. 健康福祉部長あいさつ

4. 委員・事務局職員紹介

5. 子ども・子育て会議の役割について

<資料1、資料1-2>

【事務局より説明】

## 6. 会長あいさつ

### <出席人数等の報告>

#### 【会長】

出席委員数の確認。13名全員出席。過半数以上の出席のため会議を開催。傍聴人なし。

## 7. 議題

(1) 第2期坂井市子ども・子育て支援事業計画に基づく令和4年度施策・事業の進捗状況  
および令和5年度事業計画について

<資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4>

#### 【事務局より説明】

#### 【会長】

ただ今の説明について、皆様からご質問・ご意見をいただきたい。

#### 【委員】

資料2の子ども・子育て支援事業で、達成度を分析されるAからEの5段階の基準に照らし、達成度を決定される手法というのはどのようにされているのか。ケースによって違うのかもしれないが、教えていただきたい。

#### 【事務局】

事業の内容や件数によって変わってくる。一つは、事業をやるか、やらないか。実施をしたことに対する評価が、まずあると思う。

その中で、例えば、イベントであれば、参加人数とか年間の開催回数とか、数値的な目標を立てられる場合があり、年度終わって振り返ってみて、その人数・回数を当初予想した段階を超えれば良い評価と、そのような形で、担当課で考えていただいている。

それで、実施するかしないか、したことによる評価と、人数、数値的なものの評価を両方、併せて鑑みて、総合的な評価を担当部署でされていると思う。

#### 【委員】

資料2-3のNo.20、No.21はDという評価が続いている。申請がなかったと書いてあるが、潜在的なニーズはあるものだなと感じている。保護者としては、手続きが複雑にならないように、より周知していただけたらと思う。実施がないからといってやめてしまうのは、非常に勿体ないと思う。

資料2-4の教育・保育事業で、坂井市の幼保園は、基本的に幼稚園部は3歳から入られる、3～5歳を対象とした園が少なからずあると思うが、それらの園を、例えば0歳からの受け入れに、今後する予定などはあるのだろうか。人数がどんどん少なくなってしまうと、結果的に閉園などになってしまうのであるならば、もう少し対象年齢を下げるとか、そういったことを将来的に考えているのか、お聞きしたい。

### 【事務局】

ファミリー・サポート・センター事業は、会員組織を設立するところがネックになっている。このため、市としては、すみずみ子育てサポート事業のほうで、できる限り支援をしたい。令和4年度の実績では落ちたところもあるが、5年度に向けて検討し、委託している業者の数をちょっと増やしたところもあり、ニーズに応えられるように間口を広げているところである。

### 【事務局】

坂井市は、公立園において幼保園、幼稚園と保育園の機能を併せた施設というのが、いくつかあるが、その中で、三国南幼保園、春江幼保園、春江東幼保園、高椋幼保園という4つの幼保園については、当時の幼保一元化計画により、もともと学校に併設してある幼稚園舎を利用して、幼保園化にしている。

施設の性質上、給食室がないとか低年齢児対応の部屋がないとか、それは、幼稚園施設を利用したということであり、その4つの園については、保育園の子も預かるが、3歳以上の子について行っていくという方向性である。

ただ、最近では、予想以上に少子化が進んでいるという中で、3・4・5歳しか入れない園というのが、どうしても少子化の影響を受けて減ってきているという状況である。

### 【会長】

No.21はD判定であるが、これは、本当に必要としている人に制度の情報が行き届いたうえで支援員の派遣件数がなかったのか、潜在的にあるのに情報が行き届いていなくて件数がなかったのでは、中身が大きく違うと思う。そこをもう少し、5年度については何か手立てが必要になってくるかなと思ったところである。

### 【事務局】

ひとり親家庭等への日常生活支援事業では、相談している中で、この家庭は支援が必要だなというような場合には紹介をしており、過年度では実績もある。

制度についてはホームページ等でお知らせしているが、本当に必要な方に届いているかという点、そうでないかもしれないため、計画も、周知ということになってしまう。今後、いろんな機会を利用して、こういった制度があるということを皆さんにお知らせしていきたい。

### 【委員】

今の関連になるかと思うが、No.110の事業はD判定となっている。最初がなくても、もし、対象者がいたら説明をしているというのであれば、逆にA判定で良いのかなと思う。担当課がたくさんあるので大変だとは思いますが、事務局のほうで考え方を統一していただいた方がよい。

No.100の事業についてはB判定となっているが、基本は制度上、きちんとまんべんなく対象者の方に支給されていると思うので、私の感じだとA判定で良いと思う。

この表、最終的には公表されて、市民の方が見られると思う。C・D判定になっていると、その中身が気になる可能性があるため、きちんとやれているものについては、数値が低くてもA・B判定をもっていただくと良いかなと思った。

**【事務局】**

ご意見をいただき、大変ありがたく思っている。評価の仕方については、これからも検討していきたい。

**【委員】**

No.14の事業だが、実現するとなると、人材が確保できるものなのかと気になった。

もう一つ、No.108の事業で、去年ありがたく商品券を利用させてもらったが、子どもが小学校に入ると結構な費用が発生するなど、最近ひしひしと感じている。商品券の支給は未就学児となっているけれども、拡大する予定などあるのかお伺いしたい。

**【事務局】**

まず、休日保育事業について、この事業は、保育園を利用している児童が、日曜日にその保育園をそのまま利用する代わりに、平日どこかで休むという事業であるが、休日も開けようとなると、保育士に更に日曜日も勤めていただくということになり、なかなか実現できていないというのが現実である。

昨年も、この会議の中で、休日保育とか日曜日の預かり先のことについてご意見をいただいております。休日保育という保育園を利用するの保育は、まだ実現できていないけれども、すみずみ子育てサポート事業での休日の預かり先として、今年度は、あわら市と福井市の事業所それぞれと契約することができ、市として、休日何かあった時に預けることができるという枠がどうにか確保できたという状況である。

利用者のニーズを捉えながらやっていきたいという思いは持っているが、保育士の関係でなかなか実現できないというところもあり、そういったところは申し訳ないと思っている。

**【事務局】**

子育てすくすく支援商品券支給事業については、今は未就学の第2子以降に対して支給させていただいている。これを小学生に拡大というのは今のところ考えていないが、小学校の給食費の支援だったり、子ども医療費では18歳までの子どもさんが無料であったり、そういったところで小学生にも支援が届いているということで、ご理解をお願いしたい。

**【会長】**

お金の話は難しいと思う。財源についても。

他にご意見あるかも分からないが、時間の関係で前に進めさせていただく。また、ご意見、お気づきのところがあれば、事務局にお寄せいただきたい。

なお、今、ご意見いただいたように、こうした事業計画の評価の出し方については、引き続き事務局のほうで検討をしていただきたい。

**7. 議題**

(2) 第3期坂井市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けたニーズ調査について

<資料3>

**【事務局より説明】**

**【会長】**

今後、予定されているニーズ調査についての素案の説明であったが、現時点で何か、お気づきの点があれば、お願いしたい。

**【会長】**

小学生に直々に何かお尋ねするようなアンケート項目も作るのか。

**【事務局】**

そのような項目が、何かできたらいいなと思っている。

**【会長】**

ご存じのとおり、こども基本法が施行された。子どもに関わる施策については、当事者からの意見を聞いていこうという方針が法律の趣旨にあるので、全部は難しいが、一部は子どもから何か意見を聞いても良いのかなと思ったので。できることなら、ちょっと聞けたら良い。

**【事務局】**

前回の時には、小学生の皆さんに、最後の項目で、どのような自由時間を過ごしているのかと尋ねている。そこから5年間経っており、現在の子どもさんが満足したり不平不満に思っていたりすることが、いろいろ変わってきていると思う。そのあたりも想定しながら、何か良い調査項目ができるように検討したい。

**【会長】**

ボリュームの大きい調査になるだろうと予想している。

それで、報道に出ているとおり、これからの保育所や認定こども園の利用の仕方の中で、誰でも通園制度という制度を次年度から導入しようと、国は考えているところである。

今、福井県の場合、1・2歳児の保育所等の利用率は78パーセントくらい。残りの22パーセント、あるいは0歳児の80パーセントくらいの方の中で、どれくらいの人が、誰でも通園制度のような制度を利用したいのか、希望するのかということについて、数字を拾えるといいなと個人的には思っている。

その数字が出てきた時、果たしてそれだけ受け入れられる受け皿が、市内にできるかどうか、そこもシミュレーションしなければいけないところで、今度の調査は、大変大事な調査になってくる。ぜひ、アンケートの設計のところ、しっかりと作ってもらえればと思っている。

**【事務局】**

ちょっと調べてみたところ、坂井市では、0・1・2歳で、300人強くらいが、誰でも通園制度の対象になるのかなと思う。

その方が仮に、週2日・半日利用という形を想定すると、1つの保育園が2人の保育士で、平均4人とか5人くらいを見ると仮定した場合、だいたい8カ所くらいの保育園が必要となる。それに対応する保育士が24～25人くらい必要なのではないかと個人的には思っている。

ただ、国のほうからまだ、きちんとした事業スキームというのは出ていないので、そういったものも含めて、私立園や公立園と協議しながら対応していきたいと考えている。

なお、懸案事項として、4月1日の時点で全ての0歳児が入ってくるわけではなく、途中入園もある。誰でも通園制度を優先すると、途中入園、本来保育すべき0歳児の子を預かることができなくなってしまう懸念がある。そういったところも含めて、国の動向に注目している状況である。

**【会長】**

私も注目していく。ぜひ、各園と一度、協議をされるといいかなと思う。  
また、お気づきのところがあれば、事務局にご意見をお寄せいただきたい。

## 8. 報告事項

高椋幼保園の閉園について

<資料4>

**【事務局より説明】**

(説明①…令和5年度末をもって高椋幼保園を閉園する。)  
(説明②…高椋保育園を廃園し、高椋幼稚園を今福保育園内に機能移転する。)  
(説明③…今福保育園を今福幼保園に変更し、幼稚園部と保育園部を置く。)

**【会長】**

ただ今の、高椋幼保園の閉園の説明について、何か、ご意見等があればお願いしたい。

**【委員】**

市内で、小学校併設の形での幼保園は、あと何カ所あるのか。

**【事務局】**

高椋幼保園を抜くと、あと3カ所ある。春江が2カ所、三国が1カ所である。

**【委員】**

人数は今、分かるのか。だいたいでも構わないが。

**【事務局】**

三国南幼保園で39名、春江幼保園で32名、春江東幼保園で71名である。

**【委員】**

これだけいると、閉鎖するということは今のところ考えていないと理解すればよいか。

**【事務局】**

今すぐにとという考えはない。

**【会長】**

移転にあたっての親御さんへのご説明は、きちんとできそうか。

**【事務局】**

高椋幼保園については、全部5歳児で、6名の在園児が1人もいなくなるというような状況である。基本的に、そのような説明は在園児の方に説明するものと思っており、今、特に説明を対象とするという方は想定していない。

**【会長】**

今福保育園を今福幼保園に変更することについての、行政上の手続きというのは、どういうふうにされるのか。

**【事務局】**

条例上では、幼稚園条例に高椋幼稚園があり、保育園条例に高椋保育園があり、この2つの条例がある。高椋保育園については条例上、廃園とし、高椋幼稚園については条例上、住所変更という形でさせていただく。

あとは、県のほうに届出をするという手続きだけで、過去の例を見て、そういった形でさせていただこうと思っている。

**【会長】**

坂井市の場合、園長先生は、幼保園だと1人、2人、どちらか。

**【事務局】**

1人である。

**【会長】**

令和6年度からそのようにするということである。

さて、時間が迫ってきているが、折角の機会であるので、お一人一言ずつ、ご意見なりご感想なりいただきたい。

**【委員】**

資料を細かく見ていくと、こんなにたくさんの事業を計画されているのだなと唯々、感心した次第である。主任児童委員として学校など回りながら、特に「子どもが笑顔で育つまち」、ここに注目して、もう少し勉強させていただきたいと思った。

**【委員】**

最後の高椋幼保園の閉園というのは、子どもがだんだん少なくなっている中で、ちょっと寂しい話を聞いたなというところである。

私自身、子どもの年齢の関係で2カ所の園をはしごしていた状態で、思うようにいかないところもあったので、何か改善できるようなことが今後あればいいと思う。

**【委員】**

初めてこの会議に来て、いろんな資料を見てとても驚いた。今、興味があるのは医療的なケア児の資源についてである。いろいろ教えていただきたいし、私も勉強して知りたいと思う。

### 【委員】

ニーズ調査のことで、前回の方法は郵送配布・回収ということだったが、Googleフォームというのはどうだろうか。今、GIGAスクール構想の中で子どもたちがやっているけれども、ほとんどの学校も保護者も慣れていると思う。自由記述が入力しにくいという側面はあるが、内容的に可能であれば良いかなと思う。郵送して、張り付けておいて、送り返してもいいしGoogleでもいいしとすると、楽かなと思う。

### 【事務局】

調査のボリュームが結構あることを考えると、紙ベースのほうでないちょっと難しいのかなと思う。前回の調査の時にはそういったことはなかったのですが、今後、決まる業者にそういったことができるかどうかも含めて検討していきたい。

### 【委員】

高椋幼保園が閉園になるという話を聞いて、少子化が進んでいる中、国の政策・動向をみながらたくさんの方の施策を考えていくうえで、利用者の方、保護者の方が一番選べるような環境を作っていくということが大事なのではないかと思う。

園の種類は違っても、同じ坂井市の子どもたちを育てていくということで、保護者の方に理解を得られるような場を作っていないといけないというふうに感じた。

### 【委員】

繰り返し話題となっていたこの資料の評価について、何か良いアイデアがないかずっと考えていたが、なかなか難しいと思う。それで、もしかしたら、無理に付けなくてもいいのかもしれない。指標を設けるにしても評価するにしても考え込んでいってしまうので、そこまでしなくてもいいのかなというふうに思った。

### 【委員】

最近の子どもはみんなインターネットを利用して外に出ない。外に出ても、ゲーム機を持ってそのお家に行く。それで、誰もしゃべらない。下を向いてずっとゲームをしているという中で、それで子どもたちが地域と触れ合っているのかと言われたら、正直、難しいと思う。

外の公園に出ようとすれば、事件や事故に巻き込まれるし、親は仕事で子どもを連れていく時間がない。そうすると、子どもができることが段々と少なくなっていったら、結局、本末転倒になるのではないかと、すごく心配である。

ニーズ調査をするのであれば、子どもがいる親御さんからの意見をもらって、項目を作っただけだと、アンケートの意味も、もっと活路が見えてくるのかなと思った。

高椋幼保園の閉園の話を聞いたが、身近には評判の良い園がある。保育園の何か指標みたいなものがホームページに出ているところもあり、そういうのを見ていると、子どもが自発的に何かをするようになる、何かができるようになるというのも、育っていく中で、子どもにとっては良い保育園なのではないか。子どもを預かる施設ではなくて、育てる施設になってほしいなと思う。



**【委員】**

ニーズ調査について、今、幼稚園児・未就学児と小学生、ネット利用をしているお子さんが非常に多いと思うので、ネット利用についての問い、何時間しているかとか、何をしているのかというの、聞いていただきたいなと思った。

**【委員】**

少子化が進んでいる中、第2子以降は無料とか、すすく支援商品券も第2子以降だけもらえるとあるけれども、晩婚化が進んでいるこの世の中では、不妊治療してやっとできた第1子の子どもにもっと何かしてあげれば、「家庭が笑顔で育つまち」につながっていくのではないかと感じている。もっと第1子から大切に何かしてあげていただきたいなと切に思う。

**【委員】**

子育て支援センターを利用する方の中には、県外とか市外から引っ越してこられてきた方も多くて、これらの方は、このようなたくさんの方の事業があることを知らないなので、日々、声かけをしている。これからも、必要とされている方に、どんどん伝えていけたらいいなと思っている。

**【委員】**

保育園に勤めているので、自分がよく知っていた園が一つずつ閉園していくのは寂しいが、園があつてありがたいと保護者の方に思ってもらえるように、存続できるように頑張っていきたいと思っている。

今、多国籍のお子さんが園にいるので、ポケットクを使いながらコミュニケーションを取っている。そういうふうに、いろんな方も入園して、喜んで、いい笑顔で過ごせるようにしていきたいなと思っている。

**【会長】**

たくさんのご提案をいただいた。事務局としてこれを受けて、反映してもらいたいと思う。

おおよそ量的には環境を整えつつあるので、今度は質をいかに高めていくかということが大きな課題になってくると思うので、ぜひ、また、委員の皆様と議論を重ねていきたいと思う。

## 9. その他

今後の日程

**【事務局より説明】**

## 10. 副会長あいさつ

**【副会長あいさつ】**

## 11. 閉会